

第3章 計画の目標

1. 基本的な考え方

本計画は、基本条例第3条に掲げる基本理念のもと、2019年度から2026年度の8年間の取組を念頭に置き策定するものですが、環境保全意識の高まり、地球環境問題への対応や生物多様性の保全など、環境問題のなかには、短期間では効果や結果が見えにくい分野があります。

そのため、第1次基本計画では、概ね三世代後の地域社会を想定した環境面での超長期的なビジョンを定めたうえで、目指す環境像や環境保全に関する施策の方向性などを示し、各施策を推進してきたところです。

本計画を策定するに当たっても、引き続き、市の環境の現状と課題から見出される対策のみならず、超長期的な視点で市の将来を展望したうえで、総合的・計画的に施策を展開していくことが重要と考えます。

このような考え方から、第1次基本計画で示された「超長期的な環境ビジョン」を継承しつつ、また、第2次総合計画との整合を図りながら、目指す環境像及び環境目標を示すこととします。

2. 超長期的な環境ビジョン

(1) 将来イメージ

環境面における市の将来を超長期的に展望した場合、理想的なイメージは次のとおりです。

全民が高い環境意識を持ち、環境負荷を極限まで低減している持続可能な地域社会

(2) 将来のあるべき姿

「将来イメージ」を実現するために、私たちに求められる「将来のあるべき姿」は、次の3点です。

- 各主体の有機的なパートナーシップにより、環境保全行動に対する理解が深まり、家庭や地域で環境に配慮した行動が着実に実践されている
- 受け継がれてきた多様な自然とふれあうなかで、自然を大切に思う心が育まれている
- 積極的に先進的な技術などを取り入れ、経済活動や日常生活に伴う環境負荷が一層低減されている

(3) 三世代後を見据えた具体的なデザイン

「将来イメージ」を見据え、市を構成している要素の概ね 100 年後を具体的にデザインすると、次のとおりです。

(市街地) 再生可能エネルギーの普及・利用が進み、屋上・壁面緑化を施した創エネ・省エネ型のビルや自然と調和した家々が軒を連ね、スマートコミュニティのなかを省エネ・無公害の自動車が走行している。

(山間地) 五家荘などの自然が多く残る地域では、地域特有の資源をいかした体験型・滞在型観光の振興により、余暇を利用して都市部から多くの家族が訪れ、森の息吹に囲まれながら、スローライフを楽しんでいる。また、林業従事者と市民ボランティア協働の森づくり運動により、森林は手入れの行き届いた健全な状態で管理されている。

(里地里山) 良質な水に恵まれた八代平野には美しい水田が整然と広がり、里山地域の棚田や果樹園の実りの多さとともに、イ草の縁、稲穂や柑橘類の黄、トマトの赤などの季節特有の色彩や、タガメやオタマジャクシなどの生き物たちのにぎわいが四季を感じさせている。

(川・海) 川の水は清く、シラスやアユがのぼり、水辺で無邪気に遊ぶ子どもたちの笑顔がそこそこに満ち溢れている。また、九州山地から流れ込んだ栄養分が、八代海の豊かな生命を育み、持続可能な漁業が営まれている。干潟では親子が澄みきった青空のもと潮干狩りを楽しみ、その上空を長い渡りの途中、エサを探り、羽を休めるために訪れた水鳥たちが優雅に舞っている。

(くらし) 幼い頃からの環境学習が実を結び、学校、企業、地域、家庭などあらゆる場において、“もったいない”を基調とした省エネやごみゼロ運動、地産地消が当たり前のこととして行われるなど、市民や事業者の資源を大切にする環境意識が一層醸成されている。また、個人のモラルの高まりとともに、つながりの強いコミュニティが作り上げられ、地域は積極的なボランティア活動により清潔に保たれている。

(社会) 市民・事業者・行政全てが「環境」を一つのキーワードとしたライフ・ビジネススタイルを志向した結果、“ゼロ・ウェイスト”の街となり、経済の発展と環境保全が両立した地域社会が形成されている。

3. 目指す環境像

これまでの環境行政の継続性を確保するとともに、第2次総合計画との整合・連動を図る観点から、本計画の目指す環境像を、次のとおり設定します。

＜環境像＞

人と自然が調和するまち やつしろ

《基本理念》

九州山地に広がる森林、二次的自然である里地里山、球磨川や氷川に代表される河川、干潟が広がる八代海など、本市は多様で豊かな自然環境を有しています。

しかしながら、私たちは、身のまわりの自然を当たり前のものとして捉え、便利さを追求するあまり、日常生活や事業活動を通じて、地域や地球環境に対して一方的に負荷を与え続けてきました。

このような近年の社会経済構造や生活様式の定着などにより、温室効果ガスの濃度が増加し続けているなど、自然界の許容量をはるかに超える形の負荷が蓄積されており、このままでは多大な負の遺産を将来に引き継ぐばかりでなく、生存基盤そのものの存続も危惧されています。

これまで、公害対策を主眼とした規制的手法により、ある程度の環境の改善が図られてきましたが、循環型社会の推進や地球温暖化への対応など、現代の環境問題の解決には、一人ひとりの意識や行動が大きいウエイトを占めるといっても過言ではありません。

このような状況を踏まえ、高い環境意識を持ち、実際に行動する「ひとつづくり」を基軸とし、市民の環境意識を高め、環境行動の輪を広げる一方で、私たちの生活を支える自然の機能を改めて認識し、その恩恵に感謝しながら共に生きていくことが重要と考えます。

この考え方のもと、目指す環境像として、「人と自然が調和するまち やつしろ」を掲げ、市、市民、環境活動団体及び事業者それぞれが一体となって、その実現に向け、より良い環境づくりに取り組んでいくこととします。

4. 環境目標及び基本方針

目指す環境像の実現に向けて、環境学習・環境保全行動、自然環境、生活環境、地球環境、廃棄物といった環境の側面に応じて、次の5つを計画の大きな柱「環境目標」として定め、それぞれの施策の方向性を示すための考え方を基本方針として掲げます。

＜環境像＞

＜環境目標＞

人と自然が調和するまち
やつじゅ

環境学習・環境保全行動の促進
～次世代のためにみんなが考え方行動するまち～

自然環境の保全
～多様で豊かな自然と共生するまち～

生活環境の保全・創造
～健やかで快適に暮らせるまち～

地球環境問題への対応
～地球環境への負荷が少ない低炭素なまち～

循環型社会の推進
～限りある資源が循環するまち～

<基本方針>

市民一人ひとりが高い環境意識を持ち、実際に行動していくことが、多様化する環境問題を解決し、良好な環境を保全・創出するための基本と考えます。

エコエイトやつしろの活用や環境活動団体などとの連携による環境学習を推進し、子ども達をはじめ、市民の環境意識を高めながら、環境保全行動の輪を広げていきます。

本市の多様で豊かな自然環境を良好な状態で将来に引き継ぐことは、現代に生きる私たちの使命であり、次世代に対する責務と考えます。

多面的な機能を有する貴重な自然環境の保全・利用を図りながら、将来にわたってその恵沢を皆が等しく享受できるよう、人と自然が共生できる地域づくりを進めていきます。

健やかに安心して日常生活を送るには、空気や水などが健全な状態であるばかりではなく、地域が常に清潔に保たれているなど、快適な地域づくりがその基本と考えます。

市、市民、環境活動団体及び事業者が役割分担・協働し、良好な生活環境や地域資源を保全・利用しながら、住みやすい地域環境を創っていきます。

地球温暖化をはじめとした地球環境問題は、市のみでは解決できない広域的な問題ですが、地球市民としての自覚のもと、地球規模で考え、足元から行動することが重要と考えます。

省エネ・省資源対策や再生可能エネルギーの普及・利用促進を通して、家庭や地域レベルで低炭素社会の実現に取り組んでいきます。

持続可能な地域社会を創るために、大量生産・大量消費・大量廃棄の社会経済構造から脱却し、限りある資源を有効利用する循環型社会の推進が不可欠と考えます。

「もったいない」の考え方方に即した 3Rを推進するとともに、市民生活に不可欠な環境関連施設の検討・整備を進めていきます。

5. 施策の方向性

基本方針の考え方即し、環境目標ごとに施策の方向性を次のとおり整理します。

環境目標1 環境学習・環境保全行動の促進～次世代のためにみんなが考え方行動するまち～

- (1) 高い環境意識をもったひとづくりを進めます
- (2) 環境保全行動の輪を広げます

環境目標2 自然環境の保全～多様で豊かな自然と共生するまち～

- (1) 生きものたちのにぎわいを守り育てます
- (2) 豊かな自然の恵みを未来へつなぎます

環境目標3 生活環境の保全・創造～健やかで快適に暮らせるまち～

- (1) きれいな空気や水を守ります
- (2) 恵まれた地下水を大切にします
- (3) きれいなまちづくりを進めます

環境目標4 地球環境問題への対応～地球環境への負荷が少ない低炭素なまち～

- (1) 地球市民として温暖化対策に取り組みます
- (2) 身近なことから地球環境の保全に貢献します

環境目標5 循環型社会の推進～限りある資源が循環するまち～

- (1) ごみの減量に取り組みます
- (2) 資源の循環を進めます
- (3) 環境関連施設の検討・整備を進めます

【超長期的な環境ビジョン】

将来イメージ：「全市民が高い環境意識を持ち、環境負荷を極限まで低減している持続可能な地域社会」



るべき姿：○各主体の有機的なパートナーシップにより、環境保全行動に対する理解が深まり、家庭や地域で環境に配慮した行動が着実に実践されている
○受け継がれてきた多様な自然とふれあうなかで、自然を大切に思う心が育まれている
○積極的に先進的な技術などを取り入れ、経済活動や日常生活に伴う環境負荷が一層低減されている

【三世代後を見据えた市のデザイン（イメージワード）】

【市街地】
○再生可能エネの普及・利用
○創・省エネ型ビル
○自然と調和した家々
○スマートコミュニティ
○省エネ・無公害車の利用

【山間地】
○体験型・滞在型観光の振興
○スローライフ
○森林の適正管理

【里地里山】
○水に恵まれた田園地帯
○豊富な農産物
○生き物たちのにぎわい
○季節を感じる風景

【川・海】
○水の清らかさ・親水空間
○川や海が育むいのち
○持続可能な漁業
○広大な干潟に集う渡り鳥

【くらし】
○環境学習の充実
○環境保全行動の日常化
○つながりの強いコミュニティ
○ボランティアによる美化活動

【地域社会】
○環境保全型のライフ・ビジネススタイルの定着
○経済発展と環境保全の両立

環境像

環境目標

基本方針

施策の方向性

人と自然が調和するまち やつしろ

環境学習・環境保全行動の促進
～次世代のためにみんなが考え方行動するまち～

市民一人ひとりが高い環境意識を持ち、実際に行動していくことが、多様化する環境問題を解決し、良好な環境を保全・創出するための基本と考えます。
エコエイトやつしろの活用や環境活動団体などの連携による環境学習を推進し、子ども達をはじめ、市民の環境意識を高めながら、環境保全行動の輪を広げていきます。

(1) 高い環境意識をもったひとづくりを進めます
(2) 環境保全行動の輪を広げます

自然環境の保全
～多様で豊かな自然と共生するまち～

本市の多様で豊かな自然環境を良好な状態で将来に引き継ぐことは、現代に生きる私たちの使命であり、次世代に対する責務と考えます。
多面的な機能を有する貴重な自然環境の保全・利用を図りながら、将来にわたってその恵沢を皆が等しく享受できるよう、人と自然が共生できる地域づくりを進めていきます。

(1) 生きものたちのにぎわいを守り育てます
(2) 豊かな自然の恵みを未来へつなぎます

生活環境の保全・創造
～健やかで快適に暮らせるまち～

健やかに安心して日常生活を送るには、空気や水などが健全な状態であるばかりではなく、地域が常に清潔に保たれているなど、快適な地域づくりがその基本と考えます。
市、市民、環境活動団体及び事業者が役割分担・協働し、良好な生活環境や地域資源を保全・利用しながら、住みやすい地域環境を創っていくます。

(1) きれいな空気や水を守ります
(2) 悪まれた地下水を大切にします
(3) きれいなまちづくりを進めます

地球環境問題への対応
～地球環境への負荷が少ない低炭素なまち～

地球温暖化をはじめとした地球環境問題は、市のみでは解決できない広域的な問題ですが、地球市民としての自覚のもと、地球規模で考え、足元から行動することが重要と考えます。
省エネ・省資源対策や再生可能エネルギーの普及・利用促進を通して、家庭や地域レベルで低炭素化社会の実現に取り組んでいきます。

(1) 地球市民として温暖化対策に取り組みます
(2) 身近なことから地球環境の保全に貢献します

循環型社会の推進
～限りある資源が循環するまち～

持続可能な地域社会を創るためにには、大量生産・大量消費・大量廃棄の社会経済構造から脱却し、限りある資源を有効利用する循環型社会の推進が不可欠と考えます。
「もったいない」の考え方方に即した3Rを推進するとともに、市民生活に不可欠な環境関連施設の検討・整備を進めていきます。

(1) ごみの減量に取り組みます
(2) 資源の循環を進めます
(3) 環境関連施設の検討・整備を進めます